

Art Brut



うみのもり



「令和5年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業」報告書
千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

「うみのもり」のゆらい

海のなかにも森があります。海藻でできた森です。
「藻場」と呼ばれるその森は、
時には隠れ家として、時には遊び場として、また時には
産卵の場所として、魚、ウミガメ、エビやカニなどの
多種多様な生きものを養い、
かつ海そのものの水質をも浄化する、
生態系の中で非常に重要な場所です。
今回、お話を頂いた時、
私の頭に浮かんだのはそんな「藻場」のイメージでした。
ここがあなたの「うみのもり」でありますように。

詩人 大島健夫

index

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業について

支援センターのなりたち

P1

千葉県障害者芸術文化活動支援事業 「千葉アール・ブリュットセンターうみのもり」の紹介

うみのもり活動内容

P2

令和5年度 うみのもり事業報告

ア.相談受付

P3

イ.人材育成講座の開催

P4

ウ.ネットワークの構築

P14

エ.発表等の機会の創出

P15

オ.情報収集、発信

P22

今後の展望・課題

P25

評議員からのお言葉

P26

厚生労働省 障害者芸術文化活動普及支援事業

支援センターのなりたち

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業として千葉県では、障害のある人の芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進することを目的として、2019(令和元)年より千葉県障害者芸術文化活動支援センターを設置しています。センター実施団体は、プロポーザル方式により、2021(令和3)年度からは株式会社いろだまに決定し、様々な支援事業を行っております。

全国の障害者芸術文化活動普及支援事業

障害者芸術文化活動普及支援事業とは

2014(平成26)年度から3年間を通じて全国12カ所で行った「障害者の芸術活動支援モデル事業」の成果やノウハウをもとに2017(平成29)年度から実施しています。

本事業では、「都道府県」、「ブロック」、「全国」という3つの活動エリアを設け、2023(令和5)年度はそれぞれのエリアに支援センター(43都道府県)、広域センター(7ブロック)、連携事務局(2カ所)といった支援の拠点を設置しています。

2023(令和5)年度 実施都道府県

北海道・北東北 ブロック	広域センター：北海道に設置 支援センター：青森県・岩手県に設置
南東北・北関東 ブロック	広域センター：宮城県に設置 支援センター：宮城県・山形県・福島県・茨城県・栃木県・群馬県に設置
南関東・甲信 ブロック	広域センター：埼玉県に設置 支援センター：埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・長野県に設置
東海・北陸 ブロック	広域センター：新潟県に設置 支援センター：新潟県・富山県・石川県・福井県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県に設置
近畿 ブロック	広域センター：奈良県に設置 支援センター：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県に設置
中国・四国 ブロック	広域センター：高知県に設置 支援センター：鳥取県・島根県・岡山県・広島県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県に設置
九州 ブロック	広域センター：福岡県に設置 支援センター：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県に設置
全国	連携事務局

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業 サイト(<https://arts.mhlw.go.jp>) より引用

都道府県における活動支援

芸術文化活動を行う障害者本人やその家族、障害福祉サービス事業所、文化施設、支援団体等(以下「事業所等」)を支援する拠点「障害者芸術文化活動支援センター」(以下「支援センター」)を都道府県が設置します。事業の実施は、都道府県または都道府県が認めた団体が行い、主に以下の事業に取り組みます。

- ア. 都道府県内における事業所等に対する相談支援
- イ. 芸術文化活動を支援する人材の育成等
- ウ. 関係者のネットワークづくり
- エ. 発表等の機会の確保
- オ. 情報収集・発信

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業についてはWEBサイトをご覧ください
<https://arts.mhlw.go.jp>



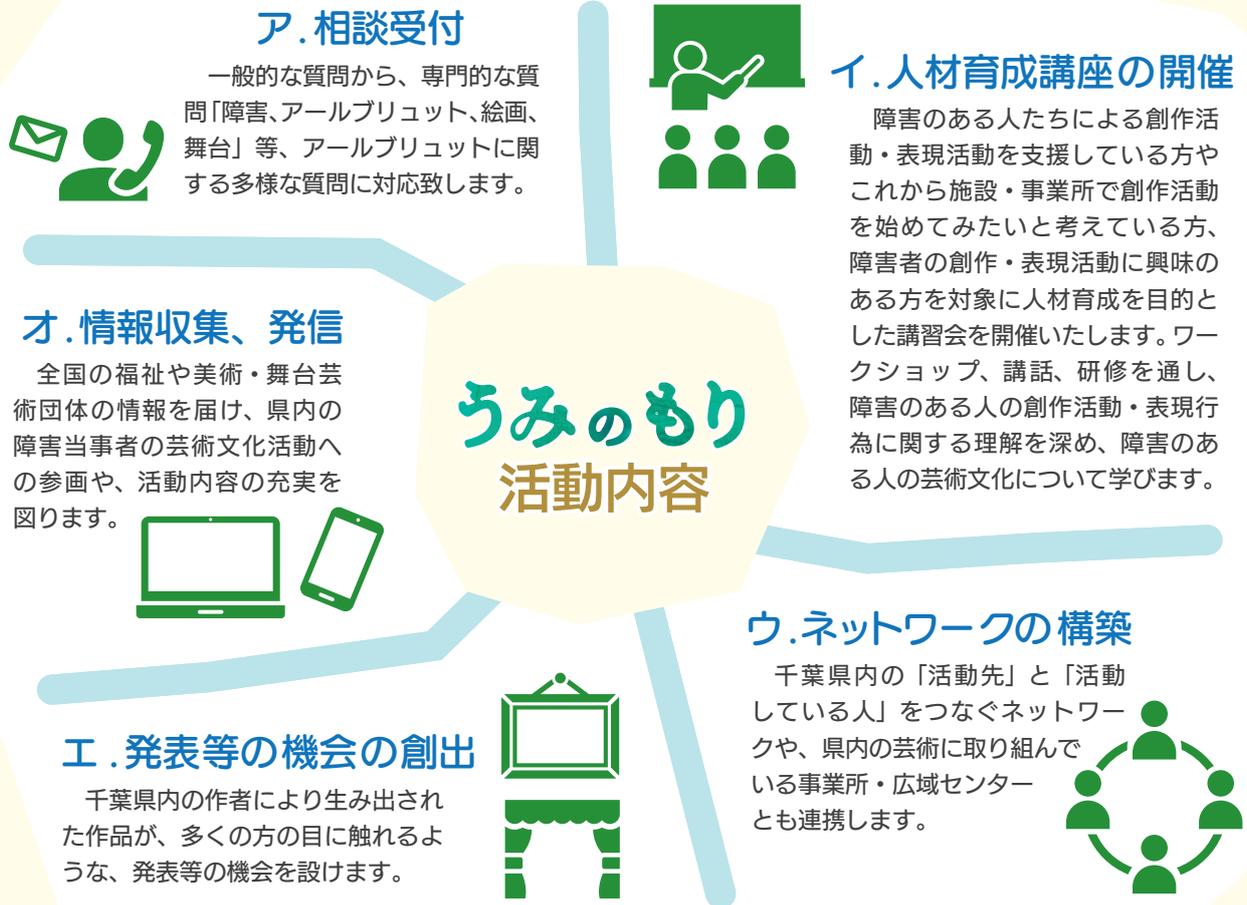
WEB サイト

令和5年度

千葉県障害者芸術文化活動支援事業 「千葉アール・ブリュットセンターうみのもり」の紹介

文化や芸術は障害のある子どもや大人の「福祉」や「教育」のためだけではなく、多様性と活力に満ちた地域共生社会の実現を目指しています。多種多様な生き物を養い、且つうみそのものの水質をも浄化する藻場。【うみのもり】は、そんな藻場のような場所でありたいと考えます。【うみのもり】は様々な表現方法や芸術をサポートしながら、芸術文化活動を支援する人の技術者習得の場の確保や表現者の様々な体験の機会を提案し、展示会などの機会を設けていきます。

実施団体の【株式会社いろだま】は、1998年より「たまあーと創作工房」としてアートと人との学びの場を作り教育と福祉にまつわるアートの活動をしてきています。アートが担う社会的役割を追求し続けています。



▲人材育成講座の企画開催（音楽表現分野／令和5年度）



▲登録作品を展示に貸出し
（千葉リハビリテーションセンター／令和5年度）

ア. 相談受付（令和5年度の相談実績から）

<統括>

コロナ禍が明け社会が動き出したことを受けて、障害者アートに関する展示会やワークショップ、イベントの企画や実施相談などが増えた。障害者アート活動支援者からのアドバイスを求める相談のほか、障害者を持つ家族、障害当事者から安心して活動できる施設の紹介、就労支援についての相談も目立った。

また、今年度は千葉県立美術館での公募展覧会「あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱 3」を実施したことにより、この展覧会についての問い合わせ・相談が数多く寄せられた。

<相談件数>

個人 19 件 企業事業所 15 件 計 34 件（2024年3月31日現在）

※このほか「あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱 3」に関するメール、電話、フォームによる相談・問い合わせが数十件。

<相談内容>

■当事者からの相談

- ・日中安心して活動できる場所を紹介して欲しい。
- ・居住地域から通える絵が描ける事業所さんを紹介して欲しい。
- ・絵を販売することで収入を増やしたい。

■事業所・支援者からの相談

- ・障害のある子どもたちの芸術活動をサポートするための活動準備をしたいのでアドバイスが欲しい。
- ・障害がある子どもに適した画材を知りたい。
- ・展示に際しての額装の仕方を教えて欲しい。
- ・障害者向けの陶芸教室を紹介して欲しい。
- ・民芸の技術を使った障害者就労の場を作りたい。

■その他

- ・パラスポーツイベント会場で障害者アート展を行いたい。
- ・建設中の物流センターで障害者アート展を行いたい。
- ・ホテルのリニューアルにあたり障がい者アートの展示を提案したい。
- ・ショッピングセンター内で運営している街かどギャラリーで障害者アート展を行いたい。
- ・千葉にて、身体遊びやコンタクトワーク、コミュニティダンスの需要や現在活動している団体がありましたら教えて欲しい。

などの相談があった。

<課題>

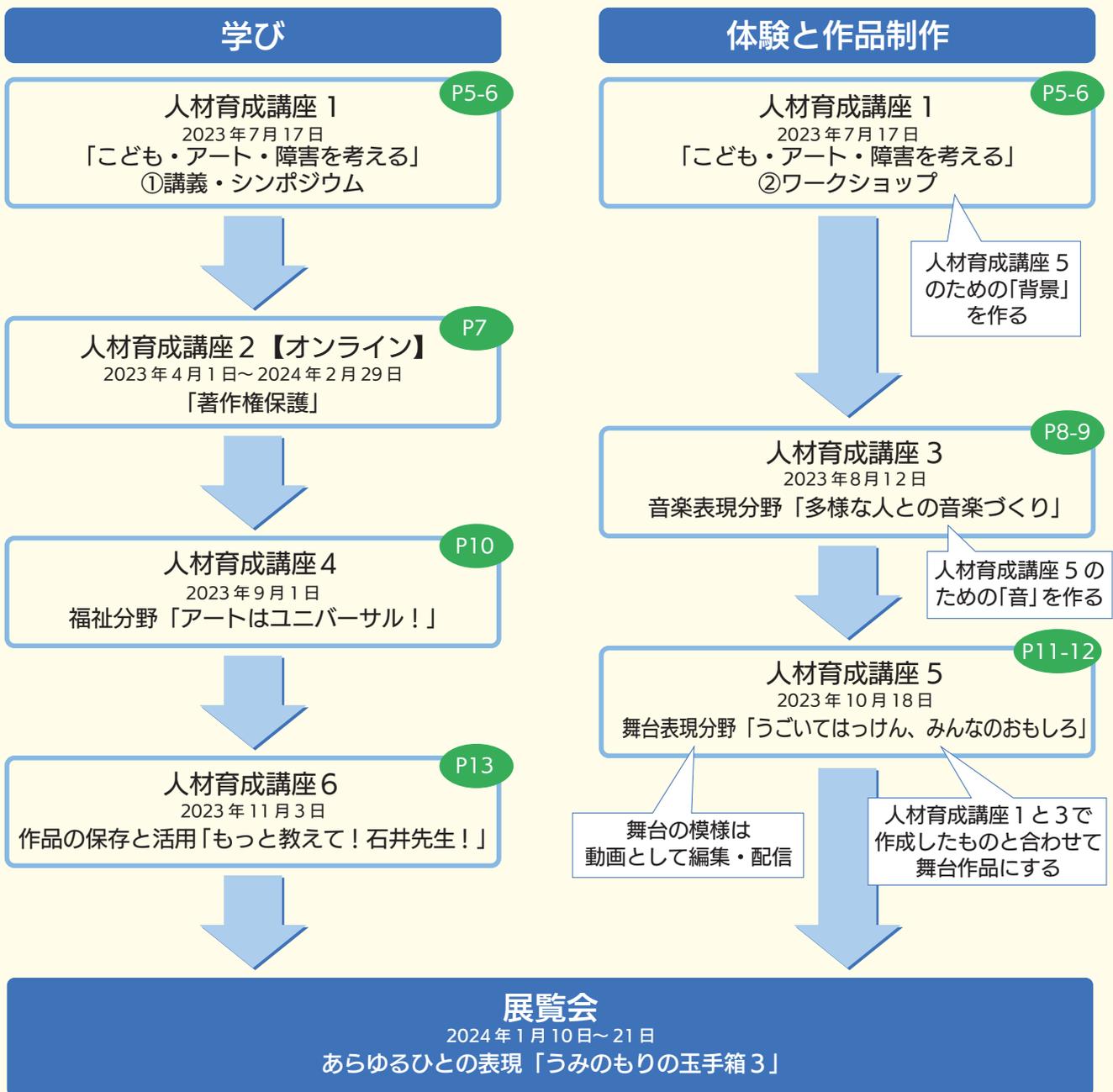
昨年度同様、事業所内で実施している方、支援者として取り入れたい方（福祉系・美術系双方）、美術館、ギャラリーでも障害のある方との関わりをどのようにすれば良いのか学びたい傾向が引き続き見られ、また、企業の障がい者アートへの関心も高まってきていることへの対応が、さらに求められる。

イ. 人材育成講座の開催

<統括>

今年度の人材育成講座は、コロナ禍の収まりをうけて、「講座2」以外は対面での実施とし、計6回（うち1回目は午前に座学、午後にワークショップの2部制）行った。「うみのもり」の人材育成講座の大きな特徴は、下の図のように、「学び」と「体験と作品制作」の2つの流れで構成されていることである。「学び」の流れにある4つの講座は、障害者アートに取り組みにあたり知っておきたい知見・知識を得る講座となっている。

一方、「体験と作品制作」の流れにある3つの講座では、ワークショップを重ねることで舞台背景、音が作られ、3回目のワークショップで利用されるというストーリー仕立てになっている。さらには、「エ.発表等の機会の創出」の事業、展覧会「うみのもりの玉手箱3」に、2つの流れを集約させる構成になっている。講座を単に並べて実施するのではなく、展覧会という場を集約させる構成になっていることが大きな特徴である。



令和5年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業 うみのもり企画 人材育成講座 開催報告

第1回人材育成講座（学び）

【記録】人材育成講座 1 2023年7月17日（月）祝

申込 65名 / 当日参加 57名

（内訳／障害者本人：2名、家族：3名、福祉関係事業所：23名、個人（福祉関係事業所勤務含）：29名）



対面講座

2023年 **7月17日**（月）祝 海の日

〈講座①〉講義・シンポジウム **10:00 ~ 12:00**

〈講座②〉ワークショップ **13:30 ~ 15:00**

会場：植草学園大学・短期大学
M棟 1階 21・22教室 (〒264-0007 千葉県若葉区小倉町1639-3)

令和5年度 キックオフ!



1

人材育成講座

こども・アート・障害を考える

午前は花澤洋太氏によるスライド使用の講義【東京学芸大学と特別支援学校の生徒たちとの関わりのお話】と、野澤和弘氏と花澤洋太氏によるシンポジウム【障害のあるお子さんたちとのアートの関わりの可能性、特別支援学校での関わりについて】を行います。

午後は花澤洋太氏、クリスティーン・プレ氏によるワークショップ【障害のあるかた、園児～小中高生対象の「えのぐと布を使ったドローイング」ワークショップ】を行います。※こちらで共同制作した作品は、10月18日開催の舞台表現分野「人材育成講座5（講師：オクダサトシ氏）」にて使用予定です。

うみのもり評議委員
東京学芸大学教授



講師：**花澤 洋太**氏

うみのもり 特別顧問
植草学園大学副学長



講師：**野澤 和弘**氏

美術家



講師：**クリスティーン・プレ**氏

こんなかたへおすすめの内容です

- * 障害のあるかた、特別支援教育に携わるかた。
- * 児童・学生（高校生、大学生）・一般のかた。
- * これから障害者アートに関わりたい福祉事業所職員のかた。
- * 障害のあるかたと介助のかたも 皆さんが楽しむ講座です。



うみのもり評議委員
東京学芸大学教授

講師：花澤 洋太氏

美術家・画家、1993年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了、1996年同大学院博士課程満期退学。修士課程在学中から院内学級、子ども園で造形活動を行う。2014年～東京学芸大学において西東京の特別支援学校、7機関の連携による作品展示「ふれる・もつ・かんじる展」を開催、出張授業、創作ワークショップ交流活動を行う。活動は令和2年度「障害者の生涯学習支援活動」に係わる文部科学大臣表彰において功労賞を受賞した。また東日本大震災以降、アートワークショップによるコミュニティづくり、教育活動を行っている。現在、東京学芸大学教職大学院 教授（教育実践創生講座 教科領域指導プログラム美術・工芸教育サブプログラム）、独立美術協会会員。

うみのもり 特別顧問
植草学園大学副学長

講師：野澤 和弘氏

1983年早稲田大学法学部卒業、毎日新聞入社。東京社会部でいじめ、引きこもり、薬害エイズ、児童虐待、障害者虐待などの報道に取り組む。2009年から論説委員（社会保障担当）を11年務め、2019年10月退社。現在は一般社団法人スローコミュニケーション代表、毎日新聞客員編集委員、植草学園大学副学長・教授。ほかに、厚生労働省社会保障審議会障害者部会委員、内閣府障害者政策委員会委員、東京大学非常勤講師、上智大学非常勤講師など。主な著書に「スローコミュニケーション」「なんとなくは、生きられない。」「障害者のリアル×東大生のリアル」「条例のある街」「あの夜、君が泣いたわけ」「わかりやすさの本質」など。

美術家

講師：クリスティーン・プレ氏

Christine Pellé
美術家、1992年パリソルボンヌ大学大学院芸術学科修士課程修了、1997年東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了、2000年同大学院博士課程修了博士号取得。1993年日本国文部省奨学金により来日、国内外で多くの作品発表、舞台美術制作、ワークショップを行っている。また障がいのある子ども達と造形活動を通じたコミュニケーションづくり、東日本大震災被災地においてアートワークショップによるコミュニティづくりなどの教育活動を行っている。

第1回人材育成講座（体験と作品制作）



【統括】

「絵の具と布を使ったドローイング」ワークショップについて

近年、アート・ワークショップが多く行われる背景には教育域に与える情報化の極まり、SNSの様々な問題は、アートの一要素である「開かれた自由」の可能性に期待される。また2019年末から流行した新型コロナウイルス感染症の拡大は非対面、リモートの活動が余儀なくされ新たな日常が生まれた。今回のワークショップは2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症が5

類感染症に移行したことで多くの制限が緩和されコロナ以前のように活動が行えた。

今まで美術家クリスティーヌと花澤のワークショップは国内外で何度も行った。毎回、活動内容は異なるが共通した目的は素材や環境に向き合い日常では体験できない異年齢交流、複合的なコミュニケーションを通し幅広い意識、思考に気づく社会的な場づくりの活動と考える。

今回、うみのもりからのワークショップの主な依頼、制約としては

1. 大きな支持体（布、不織布、寒冷紗など）に絵の具で行う。
2. 出来た作品を演劇で使用 である。事前に使用する支持体（ロール不織布）は二人で全身を使い広げリズムに合わせて動かし、水性絵の具の滲み、描き心地、乾燥具合を確認した。当日、ワークショップでは会場いっぱい用意された大きな白い不織布に絵の具の付いたテニスボール、スポンジボールを落とさないように動かすことから始まった。参加者は皆で協力し全身を使い不織布をなるべく水平状態に保ち全体のバランス、他の参加者を感じながらペイントボールを落とさないように動かした。予想外のボールの痕跡ドローイング、アクションから生まれた形態、色むらは、その後の描く、塗る活動を誘発させた。あっという間に白かった支持体は協働、個人の活動を通して様々な表情を持つ青い大画面となった。その後、皆で全体、個人の鑑賞活動をおこなった。活動は素材や環境や他者と向き合い、自らの表現を生み、同時に共創を意識する機会となった。そして出来た作品は演劇ワークショップ活動で使われる事で新たな、異なる文脈に接続し創発を促す活動になると考える。（クリスティーヌ・プレ、花澤洋太）



【申込者地域区分】

千葉市：13名、八千代市：6名、鎌ヶ谷市：5名、市原市：4名、八街市：4名、我孫子市：3名、多古町：3名、東京都文京区：3名、市川市：2名、佐倉市：2名、長生村：2名、船橋市：2名、旭市：1名、柏市：1名、君津市：1名、富里市：1名、成田市：1名、習志野市：1名、松戸市：1名、茂原市：1名、四街道市：1名、神奈川県川崎市：1名、埼玉県さいたま市：1名、埼玉県草加市：1名、不明：4名

【参加者の声】

- ・「正解がないのではなく、正解がたくさんある」ということに共感しました。
- ・障害者の行動を問題行動ととらえるのか、アートととらえるのかの話が面白かった。
- ・絵を描くために作られていた支助具が参考になった。
- ・「美術に評価は必要なのか」という問いかけに共感した。
- ・支援する側に寛容さが重要という言葉に関心した。
- ・保育園での子どもの主体性、インクルーシブ、多様性、発達のデコボコ…、ヒントになるお話がいくつかありました。
- ・誰でも参加できるワークショップが楽しかった。
- ・久しぶりに絵具まみれになれて、楽しかった。

第2回人材育成講座（学び）

【記録】人材育成講座2（動画） 2023年4月1日⊕～2024年2月29日⊕公開

「著作権の基礎知識」視聴数：累計378回

「商品化にあたって気を付けること」視聴数：累計192回

※2024年3月7日現在

オンデマンド講座 YouTube 配信

公開期間内にご視聴ください

2023年 公開期間：4月1日⊕ 10:00から ▶ 2024年 2月29日⊕ 22:00まで

著作権保護

著作権の基礎知識 と 商品化にあたって気を付けること について

一般財団法人たんぽぽの家スタッフ
講師：後安 美紀氏

参加方法

参加費：無料（※申込み不要）
動画公開期間：2023年4月1日⊕ 10:00～2024年2月29日⊕ 22:00

動画 URL：その1「著作権の基礎知識」
<https://youtu.be/QSZjnG0vbmA>

その2「商品化にあたって気を付けること」
https://youtu.be/t_BbBmvFxOM

★千葉県アール・ブリュットセンター主催の発表の場（SNSや展覧会）で作品を発表されるかたは、動画 その1「著作権の基礎知識」を必ずご視聴ください。

**こんなかたへ
おすすめの
内容です**

- * 障害のある人とアート活動を行っている福祉施設のかた 向け
- * アートやデザインを仕事にしたり学んでいるかた 向け
- * 公募展などを行う自治体や中間支援団体のかた 向け
- * 障害のある人のアートをデザインや商品化に活用したいと考えている企業や団体のかた 向け
- * ほか、表現の発信やものづくりにかかわるどんなかたにも

一般財団法人たんぽぽの家スタッフ

講師：後安 美紀氏

生態心理学の知見から、演劇、ダンス、絵画の制作プロセスを観察し、制作者や鑑賞者の行為や知覚を研究してきた。法と心理学、芸術との関わりに関心を寄せる。2017年より、一般財団法人たんぽぽの家スタッフ。知的財産権を活用しながら障害のある人のアート活動を支えたり、誰もが知財活用できる土壌づくりを目指す「知財学習推進プロジェクト」等に従事。

URL: chizai.goodjobcenter.com/

共著に「演劇と同時多発会話」『アート／表現する身体：アフオーダンスの現場』（佐々木正人編、東京大学出版会）など。



第3回人材育成講座(学び)

【記録】人材育成講座3 2023年8月12日⊕

申込 38名 / 当日参加 33名

(内訳/障害者本人:7名、家族:2名、福祉関係事業所:24名)



2023年

日時: 8月12日⊕
13:00 ~ 16:00

会場: 八千代市市民会館
(〒276-0044 八千代市萱田町 728)

音楽表現分野

多様な人との音楽づくり
~音楽でコミュニケーション~



障害のあるかたもないかたもみんなと一緒に楽器を使ってオリジナルの曲を作ります。作った音楽は参加者全員で演奏、録音もします。



こんなかたへ
おすすめの
内容です

*音楽づくりに興味のあるかた。

*障害のあるかたと介助のかたと一緒にご参加
いただき、みんなで楽しむ講座です。

*楽器を習った経験がなくても参加できます。



3

人材育成講座



©金子 愛帆

スペシャルゲスト



打楽器奏者・作曲家
渡邊 達弘氏



ダンスカンパニーコンドルズ
オクダ サトシ氏

即興からめーる団

講師: 赤羽 美希氏
正木 恵子氏

音楽家・赤羽美希と打楽器奏者・正木恵子による音楽ユニット。うたづくり、音あそび、楽器を使った音楽ワークショップを企画・実践するほか、コンサートホールやライブハウス、公共施設、学校等での演奏活動も行っている。うたの住む家プロジェクト主宰。既成概念にとらわれない、自由で面白い作品づくりと、ワークショップに参加した人、その一人一人がいなければ成り立ち得ないような音楽作りを目指している。

打楽器奏者・作曲家

ゲスト: 渡邊 達弘氏

打楽器奏者。作曲家。千葉県印旛郡栄町出身。日本大学芸術学部音楽学科(打楽器専攻)卒業。同大学院修了。これまでに打楽器を有賀誠門、新井汎氏の各紙に師事。作曲は独学で、打楽器アンサンブル作品を多く作曲し、作品は全国各地で演奏されている。即興からめーる団主催の「うたの住む家」プロジェクトに初期からスタッフとして携わり、うたづくりや演奏・CD制作などを経験。近年はオンラインワークショップの録音編集などの音楽制作も行っている。

ダンスカンパニーコンドルズ

ゲスト: オクダ サトシ氏

踊るように見えない人。映像を作ったり絵を描いたり旅行する人。飛騨生まれ美濃育ち。東京藝術大学美術学部絵画科油画修士課程技法材料研究室修了。在学中よりアートレスラーを名乗りパフォーマンスを始め『新宿少年アート』などに参加。Dance Company Nomade-s『ABSENT』で初舞台。近藤良平と共演したのをきっかけに1999年コンドルズに参戦。全作品に出演。劇中映像も担当。2016年よりgoen®所属。野田地図『パイパー』、ジェローム・ベル『Gala』、山田洋次監督『家族はつらいよ 2』出演。劇団☆新感線などのアートディレクション、TV番組も手がける。「体を使ってオモロなことする」ワークショップを多数開催。
<http://www.condors.jp/>
<http://www.goen-goen.co.jp/>

第3回人材育成講座（体験と作品制作）

【統括】

●赤羽 美希：即興からめーる団が目指すのは、集まった方一人一人がいなくては作り得ない音楽をつくることです。また、ワークショップの中で、集まった方々みんな一人一人の音や作った音楽を味わい、共有する時間を持つこと、ワークショップの後で、参加した皆さんが思い切り音を出した、創作した、と感じられるような時間になることを願い、ワークショップを計画しています。

今回は、後のダンスワークショップとのコラボレーションも意識しながら、出来上がった音楽にバリエーションが生まれるように、全員で一つのうたを作るプログラムとそれとは対照的に音が散発的に鳴り響くような即興演奏のプログラムを中心に進めました。うたづくりでは、参加者さんから飛び出した「うたうチャーシューメン」というテーマで千葉ならではの歌詞のアイディアとメロディがポンポンと出てきてうたが完成。ギターをお持ちいただいた方と、コード進行を共有しつつ、たくさんいるパワーボカルの個性的なうたやセリフが飛び交う、高揚した時間を味わわせていただきました。

後半はダンスに合わせて音を出してみるプログラムで、小学生の奏でるピアノの響きや、パワフルなドラムの響き、ボイスパフォーマンスが印象的なセッションでした。

今年度は対面でのワークショップの実施で、年齢層も幅広いたくさんの方と賑やかな雰囲気を楽しみに味わうことができました。みなさんの中から飛び出した音のかけらが、どのように身体表現と組み合わせられ、作品となるのか、楽しみです。

●正木 恵子：今回は対面でもとてもたくさんの方々に参加していただきました。障害のある方も、支援者の方も、色んな人が一緒に音楽をする場に立ち会えてとても幸せです。

一人一人の出す音や、声、動きが重なって本当に大きな音楽の渦が生まれていました。また、みんなで意見を出し合ってひとつのうたを作れたことも感無量でした。

これからも、このような自由で多様な表現の場がもっともっと広がっていくよう願っています。ありがとうございました！

●渡邊 達弘：私は8月12日に開催された人材育成講座3【多様な人との音楽づくり】の録音と録音音源の編集を担当させていただきました。

ワークショップでは、非常に多くの魅力的な「うた」「こえ」「おと」が溢れていました。「うた」は即興からめーる団さんの主導で参加者の皆さんから引き出された歌。そしてみんなで演奏・熱唱した歌。「こえ」は時にラップのように、時に心の叫びのように、心と耳に残る言葉やタイミングで発せられた声。またオクダサトシさんが引き出されていた色々な方の率直で面白い声。「おと」は参加者の皆さんが持ち寄ってくださった様々な楽器やドラムセットなどで演奏された熱い音。そしてピアノや金属打楽器から奏でられた透明で美しい音。そんな真っ直ぐに伸び伸びと発せられた「うた」「こえ」「おと」が集まって成る音楽は、まるで波やうねりのように響き、時間をカラフルな喜びと幸せの色に彩っているように私には感じられました。

【参加者地域区分】

市川市：11名、佐倉市：7名、八街市：7名、八千代市：6名、千葉市：4名、船橋市：3名

【参加者の声】

- ・言葉で伝えるのが苦手な子どもたちが、自由に自分を表現するのに、今回のような音の楽しみ方や、見せていただいた映像作品など、無限の可能性があると感じました。職員も普段の音楽療育への考えの幅が大きく広がりました。
- ・皆さんが積極的に参加されていたのが印象的でした。全体をリードして短時間で作品のベースを築き上げたのは、熱意と経験がある方たちの存在は大きいと思いました。
- ・私の事業所は主に知的や、発達障害の子ども達を対処に音楽で療育をしています。なかなかみんなで作りあげること、参加すること、色々な年齢の方々との関わりがないのでとても私も含めて良い体験ができました。初めて集まったメンバーで、1つのもの作りあげていく空間や、一体感がとても素晴らしかったです。子ども達も参加しやすく導いて下さり、声かけて頂き最初は発達障害独特の症状がありました参加できたね！と、成功体験ができ私もとても嬉しく子ども達も達成感があったようです。



第4回人材育成講座（学び）

【記録】人材育成講座 4 2023年9月1日（金）

申込 21名 / 当日参加 16名

（内訳／障害者本人：0名、家族：0名、福祉関係事業所：16名）



2023年

日時：9月1日（金）

10:00～12:00

会場：千葉県立美術館 研修室

（〒260-0024 千葉市中央区 中央港1丁目10番1号）

福祉分野 「障害のあるかたとの関わりを知る」講座

アートはユニバーサル！

～みんなで楽しむために～



障害のあるかたとのワークショップを企画したり、障害のあるかたとの美術鑑賞の場での留意点、障害のあるかたとの表現の場での対応へのヒントなどを学ぶため、日頃より障害のあるかたと関わり、障害者福祉の場を形成している、株式会社ベストサポート代表取締役竹嶋信洋氏にご登壇いただきます。

株式会社ベストサポート
代表取締役

講師：竹嶋 信洋 氏



株式会社ベストサポート 代表取締役。社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会にて福祉の基礎を学び、H23年に千葉市若葉区西都賀の地にて独立。事業所運営、相談支援専門員として活動する中、H28年4月に西都賀3丁目・4丁目自治会会長を拝命し、「障害のある人もない人も共に暮らす」ことをモットーに活動中。一般社団法人スタジオフクシ共同代表理事。社会福祉法人りべるたす理事。NPO 法人久縁理事長。

こんなかたへ
おすすめの
内容です

- * 障害のあるかた、そのご家族。
- * 福祉従事者、美術館・博物館・舞台関係者、アーティストなど。
- * 障害者の表現の場を形成することを目的とされているかた。

【参加者地域区分】

千葉市：7名、八千代市：5名、柏市：3名、習志野市：2名、東京都豊島区：1名、我孫子市：1名、市川市：1名、無回答：1名

【参加者の声】

- ・障害のあるなしにかかわらず、人と人が「つながる」、「つなげる力」が芸術文化にはあることを学びました。
- ・「グラデーション」があること。支援する側と支援される側が、実ははっきりわかれているわけではなく、支援される側が支援している面もあることが知れてよかった。持ちつ持たれつの関係性があることがわかり、よかった。
- ・「心のバリア」を持たず、障害者に対して先入観を持って接しないことが重要だと気付いた。
- ・福祉関係がどうかに関係なく参加できるワークショップがあればよいなと思った。
- ・障害によってできること、できないことがあるので、その特性に合った作品づくりを教えて欲しい。



第5回人材育成講座（学び）



【記録】人材育成講座 5 2023年10月18日(水)

申込 38名 / 当日参加 38名

協力団体 社会福祉法人榎の実会 28名（うち職員 8名）

公開対面講座

2023年

日時：10月18日(水)
13:00～15:30

会場：千葉県東総文化会館 大ホール
(〒289-2521 千葉県旭市八666)

ホールの舞台上で
身体表現と、ポエトリーリーディング

今年も大ホールの舞台上でワークショップ講座を開催します。昨年に続きオクダさんをお迎えして、8月の人材育成講座3で即興からめーる団さんと作った音楽を流しながら、また今年は大島さんをお迎えして、自作の詩のポエトリーリーディングも行いながら、体を動かします。体を動かしてみたいかた、詩を読みたいかた、読んでもらいたいかた、ご参加お待ちしております。ワークショップは撮影をして映像作品にもします。ワークショップの見学も大歓迎です。

5
人材育成講座

舞台表現分野



うごいてはっけん、みんなのおもしろ

舞台上で
体を動かしてみませんか？

言葉や音楽に合わせて、ワクワクモジモジ。
なんとなく動いてみれば、何かが生まれる。
舞台上に立って照明や音響を実際に体験するワークショップです。

舞台上で自分の詩を
読んでみませんか？
作品大募集!!

ダンスカンパニーコンドルズ

講師：オクダ サトシ氏
(ワークショップ総監督・映像担当)



詩人

講師：大島 健夫氏



協力：社会福祉法人 榎の実会

こんなかたへ
おすすめの
内容です

- * 音楽に合わせて動くのが好きなかた。
- * 他人と一緒にのこをするのが苦手なかた。
- * ダンスが得意な人もぜひ。
- * 障害のある方も介助の方も一緒に舞台上で動きます。
- * 障かひのあるかたに何らかの形で関わる、関わろうと思っている全てのかた。

ダンスカンパニーコンドルズ

講師：オクダ サトシ氏

踊るように見えない人。映像を作ったり絵を描いたり旅行する人。飛騨生まれ美濃育ち。東京藝術大学美術学部絵画科油画画修士課程技法材料研究室修了。

在学中よりアートスラマーを名乗りパフォーマンスを始め『新宿少年アート』などに参加。Dance Company Nomade-s『ABSENT』で初舞台。近藤良平と共演したのをきっかけに 1999年コンドルズに参戦。全作品に出演。劇中映像も担当。2016年よりgoen®所属。野田地図『パイパー』、ジェローム・ベル『Gala』、山田洋次監督『家族はつらいよ 2』出演。劇団☆新感線などのアートディレクション、TV番組も手がける。「体を使ってオモロなことする」ワークショップを多数開催。

<http://www.condors.jp/> <http://www.goen-goen.co.jp/>

詩人

講師：大島 健夫氏

詩人。千葉県生まれ千葉県育ち。自作詩の朗読の日本選手権・ポエトリースラムジャパン 2016 優勝。パリで開催されたポエトリースラム W 杯で準決勝進出。モットーは「全ての事象は詩、なのかもしれない」。

第5回人材育成講座（体験と作品制作）



【統括】

●**オクダ サトシ**：
昨年に続き、東総文化会館の大ホールをお借りして「うごいてはっけん、みんなのおもしろ」というタイ

トルでワークショップを行いました。

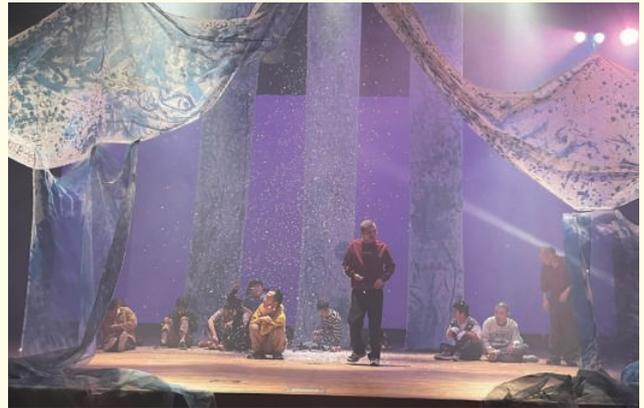
この座組では、劇場の舞台の上で出来る様々なことを、障害のあるみなさんに体験してもらっています。昨年はスポットライトや色に変化する照明、開閉する幕を。今年は伝統的な「雪籠（ゆきかご）」と呼ばれる装置を使って、紙の雪を降らせました。雪に反応する人、佇む人、見つめる人、歩き回る人、素晴らしいシーンになりました。



こちらからは何も演出はしません。場を用意しているだけです。みなさんが光の中に入って、流れてくる音に反応して、それぞれの動きが始まります。話し出す人もいれば、踊り出す人もいます。それだけで表現になります。

障がい者アートには、美術、音楽、舞台表現などいろいろありますが、うみのもりの人材育成講座のように、他ジャンルが融合しているものはまだ少ないです。

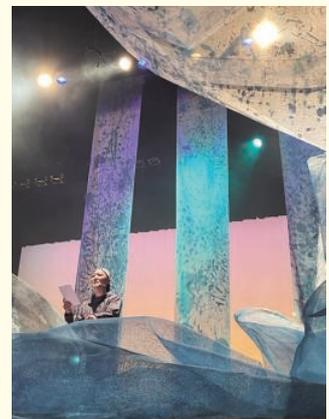
今回から言語表現の「詩」が入ってますますパワフルになってきました。来年以降の展開が楽しみです。



●**大島 健夫**：2023年10月18日、東総文化会館で、ワークショップ参加者の皆様が織りなしたことは、二度と実現しないかけがえのないものです。当たり前のことですが、たとえこの後、地球が何億年の歳月を経ようとも、同じことが起きることは決してありません。参加者の皆様が声に出したことと出さなかったこととは等しく価値があり、動いたことと動かなかったこと、開いたものと閉じたものもまた等しく価値があることを改めて感じさせてくれた舞台でした。

また、この日のためにお寄せいただいた皆様の詩を朗読させて頂きましたが、その全てが、あらかじめ生命を持った詩でした。一篇の詩は何時間、時には何分かで書き上がることでしょう。しかし、書き手にとって、それはそれまでの人生の時間に足すことの何時間、あるいは何分です。そのことに改めて精一杯の敬意を捧げます。

この舞台にかかわれたことを幸せに思い、かつ、関係する全ての方に感謝申し上げます。



【参加者地域区分】

多古町：28名、八千代市：3名、千葉市：3名、旭市：2名、匝瑳市：1名、市原市：1名

【参加者の声】

- ・今回の参加者の方々は障がい重い方が多いと感じましたが、スタッフの方々はやさしく適切に対応されていて、心暖まる感じがした。
- ・詩の朗読と太鼓のコラボに驚いた。臨場感があり、それぞれの魅力が重なり合っていた。
- ・障害を持っている方のありのままの姿を形にしていく取り組みが素晴らしかった。
- ・最初に全員が舞台上がり体験をした後に、打楽器をやりたい人だけが残り表現を行う。段階を踏んで内容が深まっていくのがよかった。
- ・表現が面白い人、興味深い人を舞台上げ、巻き込んでいくことは、講師側とスタッフの連携やスタッフの経験が必要だと感じた。
- ・障がいのある方が、こちらの意図しない行動を取る場合もあるので、講座を進めていくうえでは講師側の応用力が大切だと思った。

第6回人材育成講座（学び）

【記録】人材育成講座 6 2023年11月3日（金）祝

申込7名 / 当日参加2名

（内訳／障害者本人：0名、家族：0名、福祉関係事業所：2名）

対面講座
2023年
日時：**11月3日（金）祝**
13:00～15:00
会場：**千葉県立美術館 第2アトリエ**
（〒260-0024 千葉市中央区 中央港1丁目10番1号）

作品の保存と活用
教えて！石井先生！
— こんな時には、どうするの？ —

日頃の素朴な疑問から画材に関する専門的な質問まで、広くお聞きできる機会が今回の講座です。石井先生にお聞きしたいことを事前に募集しています。10月25日※までに申込みフォームからお寄せください。参加される方はもちろん、質問のみでの参加も大歓迎です！お待ちしております。

絵画修復家
講師：**石井 亨**氏

1960年 東京（新橋）で生まれる
1985年 東京藝術大学 油画技法材料研究室修了
85～88年 東京藝術大学非常勤講師（助手）
88～91年 東海大学教養学部非常勤講師
91～93年 ロシア国立 絵画・彫刻・建築大学留学（平成3年度 文化庁在外研修生）
94～02年 常葉学園短期大学非常勤講師
01～07年 公財）石橋財団美術品保存管理課長
2007年 ConRes 工房開設（西洋絵画の保存・修復工房）
2015年～ 多摩美術大学非常勤講師

たとえば、
作品を額縁に入れるのは、どのように行うのですか？
マスキングテープとセロハンテープの違いとは？
作品を保管するためには、何をしたら良いですか？
など

【統括】

今回の講座では参加者が非常に少なく、ほぼマンツーマンでの開催となったため、参加者と密接に関係したワークショップ形式とした。初めに作品の制作と保存と活用の方法について、PCとプロジェクターを使用し参考画像※を提示しながら実例を紹介した。保存性を優先して作品制作を行うと材料や技法に制約を受ける場合が多い。修復家の立場では保存性は修復家に任せて制作の自由度を優先しても大きな問題は無いとするが、使用する材料によっては有毒なものがあるのでその点では注意が必要である。また材料の保存性は用途によって限定されるものであり、この点についても注意は必要である。



作品の保存や展示に際して粘着剤の使用は避ける必要があり、貼り付けなどでは接着剤を使用する必要がある。その後、作品の額装方法について、安定した糊によるテープや薄美濃紙による吊りヒンジによる方法を演習し、基本的な考え方の理解を求めた。（石井 亨）

※参考画像：ジャン＝ミシェル・バスキア『SEE』、マルティン・ラムレス『ラッパ手』『ボート』、山下清『晩秋』、谷内六郎『千歳台遺跡壁画』、エドガー・ドガ『浴槽の女』を使用した。

【参加者地域区分】

千葉市：2名、八千代市：1名、市原市：1名、茨城県稲敷市：1名、習志野市：1名、不明：1名

【参加者の声】

- ・ 作品を傷めない額装の事を知らなかったもので、勉強になりました。
- ・ 自分たちが調べて取り組んでいるだけでは知らなかった知識を、時間いっぱい教えてくださり、ありがとうございました。施設に戻って共有させていただきます。
- ・ 画材の選び方の意味も丁寧に教えていただき、ありがとうございました。
- ・ 施設利用者さんの作品の展示や活用事例など、他施設の取り組みを見る機会も作って欲しい。

ウ. ネットワークの構築

うみのもりでは、「作家（表現者）を中心として福祉の「支援者」「事業所」をつなげる。」をテーマに、「表現活動のネットワーク」、「アート×福祉のネットワーク」の2つのネットワークを作ることを目指している。

【活動事例1】

南関東・甲信ブロック合同企画展 2023 「カウンターポイント」への出展協力

2023年11月29日（水）～12月3日（日）
会場：埼玉県立近代美術館
一般展示室4（地下1階）



【活動事例2】

「人材育成講座」でのつながり

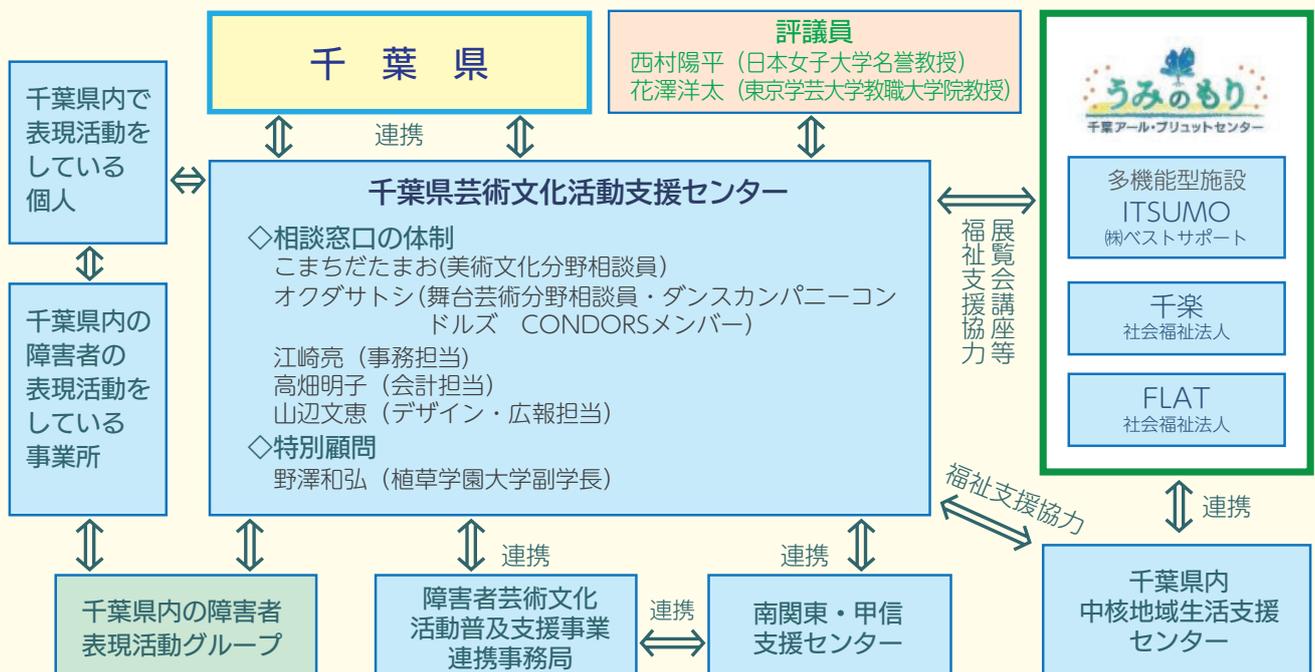
本事業で実施してきた「人材育成講座」にて多数の福祉事業所の方々が参加・協力してくださいました。



【活動事例3】

展覧会「うみのもりの玉手箱3」への参加

本事業で実施した公募展覧会「あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱3」では、県内40の福祉事業所が応募してくださいました。



エ. 発表等の機会の創出

展覧会「うみのもりの玉手箱3」開催



千葉アール・ブリュットセンター「うみのもり」では、「千葉県障害者芸術文化活動支援事業」の1つ「発表等の機会の創出」として、公募展「うみのもりの玉手箱」を実施しました。

令和3年度からはじまったこの「うみのもりの玉手箱」。今年度で3回目を迎え、発表の場を千葉県立美術館に移し、2024年1月10日から21日まで開催しました。

障害のある方の日々の豊かな余暇活動、表現を通じての社会参加、仕事の創出、支援をする方との大切な時間を作り上げることに「つながる」芸術文化活動になることにつながれば、幸いです。

2024年

1月10日(水) - 21日(日) **千葉県立美術館 第4展示室**
千葉市中央区中央港1丁目10番1号 **入場無料**

開館時間 9:00~16:30 (休館日は1月15日(月)/最終日の入場は16:00まで)

主催：千葉アール・ブリュットセンターうみのもり

共催：千葉県

後援：朝日新聞千葉総局 / 株式会社千葉日報社 / 公益財団法人千葉県文化振興財団 / 千葉県教育委員会 / 産経新聞社千葉総局
社会福祉法人千葉県身体障害者福祉協会 / チビテレビ / 東京新聞千葉支局 / ベイエフエム / 毎日新聞千葉支局
読売新聞千葉支局

協力：社会福祉法人 オリーブの樹 (フラッグ制作)

これまでの「うみのもりの玉手箱」

令和3年度には、千葉市民ギャラリー・いなげにて開催。



『うみのもりの玉手箱』
展覧会の動画



令和4年度には、2箇所(千葉市民ギャラリー・いなげ、まあるい広場ギャラリー cue9)にて開催後、千葉県東総文化会館ギャラリーで巡回展示をしました。



『うみのもりの玉手箱2』
展覧会の動画



「うみのもりの玉手箱3」エントリー総括

展覧会
あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱3
【よろこび！】をテーマに表現した
アール・ブリュットの作品募集

展覧会【入場無料】

会期日時：2024年1月10日㊤～21日㊤ 9:00～16:30

最終日の入場は16:00まで、搬出は16:35から

休館日は1月15日㊤

表彰式：2024年1月19日㊤

会場：千葉県立美術館 第4展示室（千葉市中央区中央港1丁目10番1号）

あなたも展覧会で作品を発表してみませんか！

募集作品の部門

- ・部門1：絵画・彫刻（立体）・写真・書・クラフトの作品
- ・部門2：うみのもりフラッグの作品
- ・部門3：詩等の作品

まずは、エントリーのお申込みを！

※エントリーフォーム (<https://forms.gle/jHkqzGR94JThvZKL8>)、メール、FAX、郵送でお申込みできます。

詳しい募集内容については、各分野の〈応募要項〉〈参加規約〉をご確認ください。

エントリー締切 2023年10月12日㊤【必着】

上記のようなかたちで募集を行い、238点のエントリーがありました。
このうち、実際に展示された作品は、210点でした。

■展示作品数：210点

部門1：絵画122点、彫刻（立体）：17点、写真：7点、書：5点
クラフトの作品：12点、その他：6点

部門2：フラッグ作品：28点

部門3：詩等の作品：13点

■共同制作（福祉事業所）：31点

■参加個人数（福祉事業所からのエントリーを除く）：32点

■参加事業所数：40点

■展示期間中の来場者数：4,177人

「うみのもりの玉手箱3」受賞作品紹介と審査員のことは

展覧会 あらゆるひとの表現
うみのもりの玉手箱3

部門1 絵画・彫刻(立体)・写真・書クラフトの作品

受賞作品

本年度「部門2：うみのもりのフラッグ作品」と「部門3：詩等の作品」は、審査の対象外となっております

千葉県知事賞



「サンゴさんだいすき！」
池田百合子

千葉県教育長賞



「春の動物園」
希望の虹 いきいき健康道場の仲間たち

千葉県立美術館長賞



「心が踊る瞬間」
なな

千葉日報社賞



「クジラのダンス」
佐川修一



「富士山」
山本実

チバテレぐんぐん賞



「創作人形5体セット」
メガネザル



「おどろろ!! 楽しもう!!
ハッピーロード!!」
生活介護事業所れんげ

ベイエフエム賞



「感情を知った喜び」
佐藤響



「特上寿司のたまて箱」
ワタキン

うみのもり賞



「くだもの」
加治屋俊



「無題」
高木彰光



「ITO」
MITO



「カラフルな星」
吉川拓人

「うみのもりの玉手箱3」審査員コメント

☆千葉県知事賞

- ・「サンゴさんだいすき！」池田百合子 様
細かく丁寧に作られた作品で、色合いも鮮やか。絵の中の生き物たちのサンゴが大好きというよろこびの気持ちが伝わってくるよう。

☆千葉県教育長賞

- ・「春の動物園」希望の虹いきいき健康道場の仲間たち 様
作品が大きく、見ごたえがある。大変な力作で楽しそうな様子が伝わってくる。作業は細かくて丁寧。見る人がほっこりする作品だと思う。

☆千葉県立美術館長賞

- ・「心が踊る瞬間」なな 様
出会いの時間と自分の心とを織り交ぜながら描いている。安心と喜びが伝わってくる作品。

☆千葉日報社賞

- ・「クジラのダンス」佐川修一 様
ダイナミックな筆遣いで、クジラの喜びを表現している。「うみのもりの玉手箱」というタイトルにもふさわしいと感じた。
- ・「富士山」山本実 様
新聞紙など古紙を再利用し、長い年月をかけて制作した力作。富士山の象形を正確に表現している点は、驚き。

☆チバテレぐんぐん賞

- ・「創作人形5体セット」メガネザル 様
あざやかで細かな色づかいで、うれしそうな表情のかわいい人形に仕上がっている。
- ・「おどろろ!! 楽しもう!! ハッピーロード!!」生活介護事業所れんげ 様
あざやかな色彩の中で人物が楽しそうに踊っている。いきいきとしたよろこびに満ちた作品。

☆ベイエフエム賞

- ・「感情を知った喜び」佐藤響 様
テーマに合った作品、感情と知る喜びを絵で表現する。とても素敵な作品だと思う。
- ・「特上寿司のたまて箱」ワタキン 様
テーマに合った作品、楽しみながら作る喜びが伝わる作品。

☆うみのもり賞

- ・「くだもの」加治屋俊 様
- ・「無題」高木彰光 様
- ・「ITO」MITO 様
- ・「カラフルな星」吉川拓人 様

どの作品も、障害の特性を活かして作られた作品だと思う。

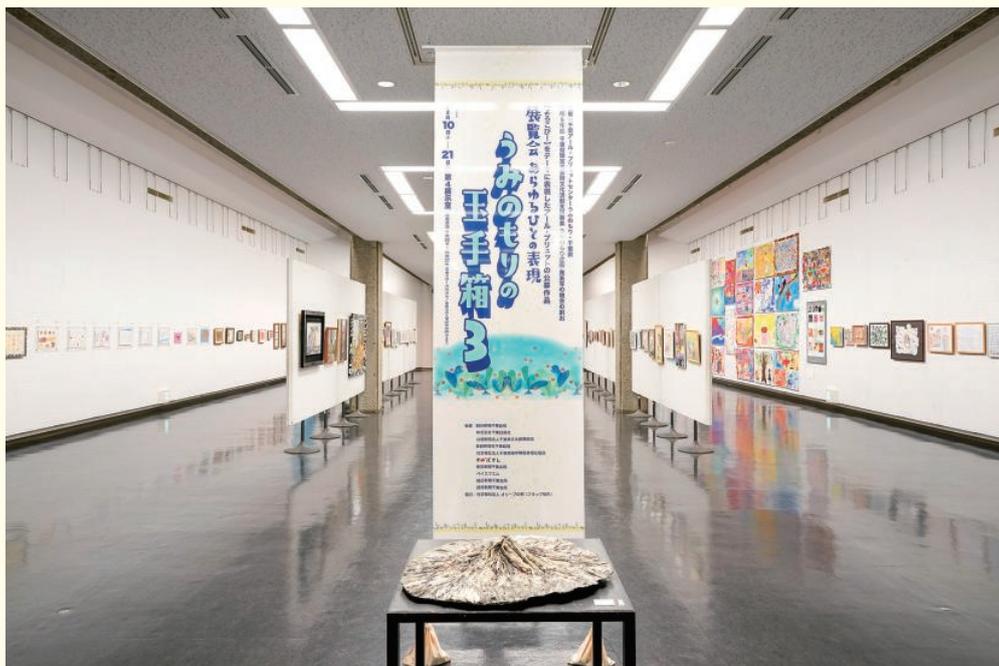


展覧会「あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱3」①

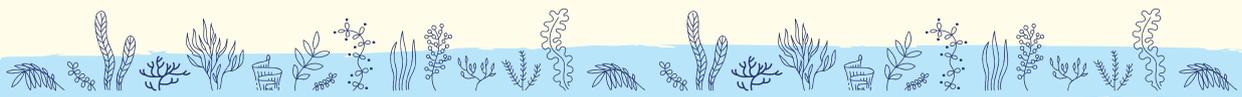
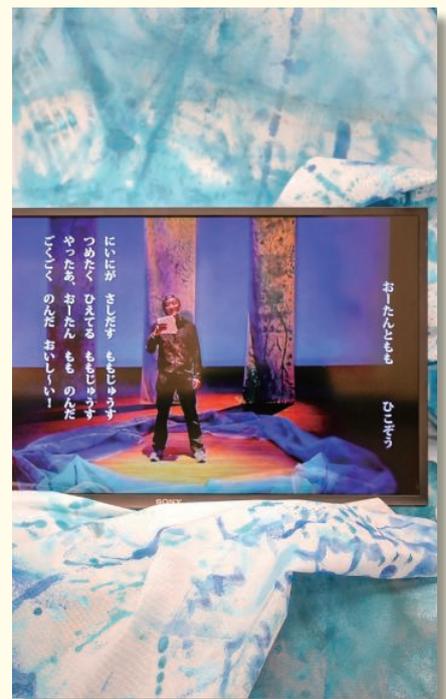
会期：2024年1月10日（水）～21日（日）

会場：千葉県立美術館 第4展示室

撮影：竹村浩輝

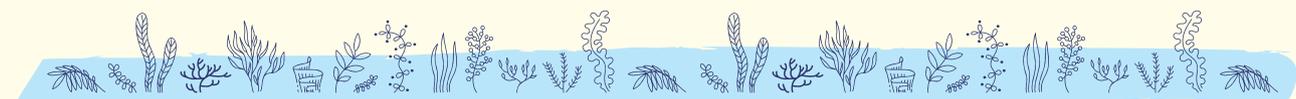


展覧会「あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱3」②



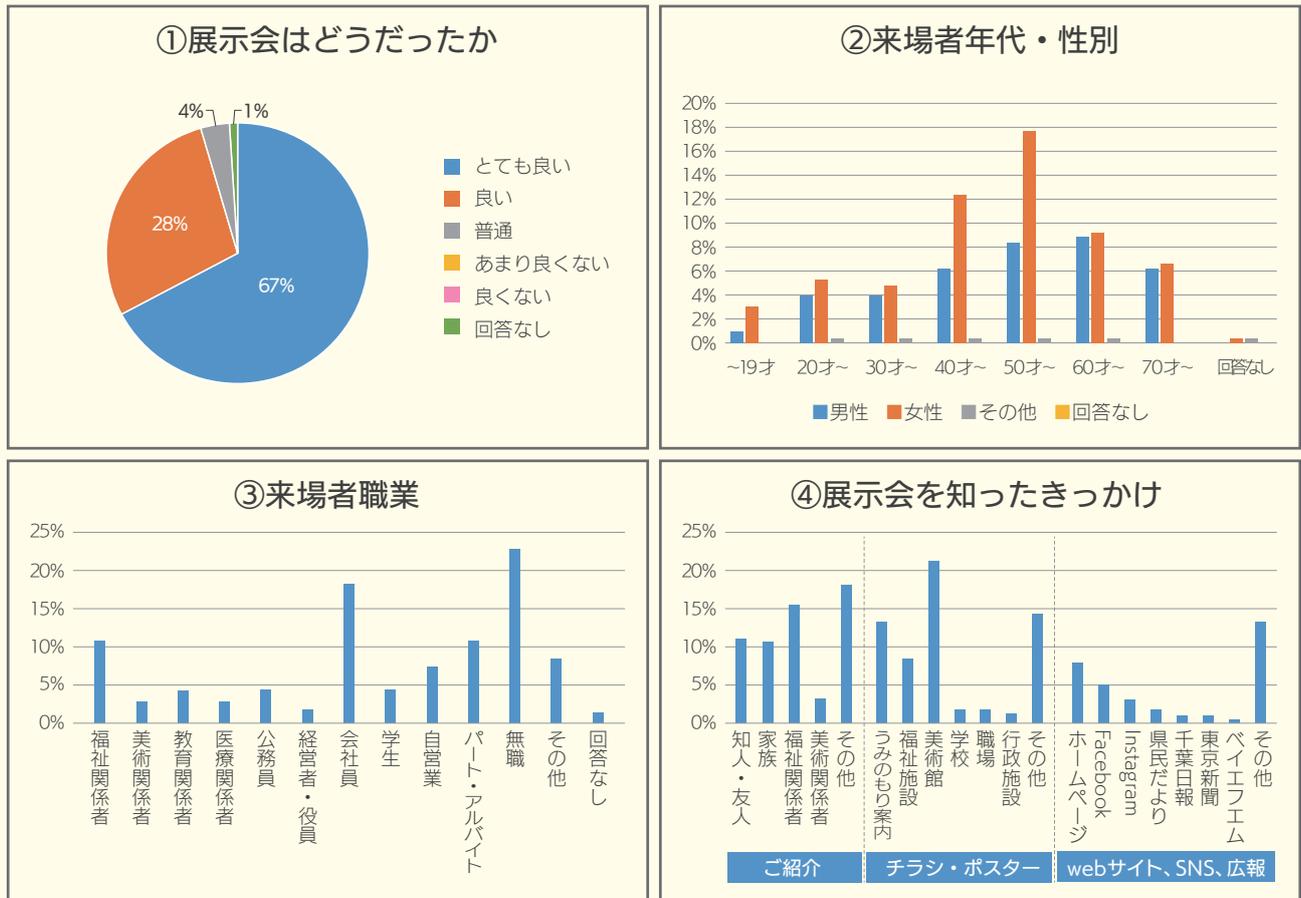


展覧会「あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱3」③



「うみのもりの玉手箱3」来場者アンケート集計（回答数 225）

【アンケート結果】



【来場者の声】

- ・人の気持ち、優しさ、あたたかさが伝わってきた。
- ・自分の好きなように表現していてよかった。
- ・自由に作っていいというのはこういうことだと改めて感じた。
- ・素直な表現、空気が楽しさで溢れていました。この度は、息子の作品を展示していただきました。息子も照れながら自分の作品を指さしていました。
- ・様々な材料から作品が作られていて、とても見応えがありました。
- ・いつも一緒に働いている利用者さんの描いたイラストがこのような形でみんなに見て頂けて嬉しかったです。
- ・テーマはありましたが枠にとらわれず色々な作品があり心が豊かになりました。
- ・障害やハンデのある方、事業所の利用者さんのあらゆる技法の表現が多種にわたり、鑑賞していて驚きや楽しみがありました。
- ・事業所からフラッグ作品の制作として参加させていただき、事業所での遠足として会場に足を運ばせていただきました。放課後デイサービスは毎週の利用メンバーに変動があるため、継続した活動を行うのが難しい中、フラッグを中心にまとまりのある活動期間がもてたことは大変有意義な体験でした。
- ・のびのびしていて、こちらが身構えて鑑賞することなく、スツと心に響いてきて楽しめる、等身大のアートだなあと感じました。小学一年生の子供とアレコレ感想を言いながら楽しみました。
- ・近くで見た時の作品の細かさに驚きました。
- ・様々な作品形態が展示してあり面白かったです。
- ・“障害者”というバイアスにとらわれずに作品を楽しめた。
- ・たくさんの全く違った作品が集まるところで会場中がお祭りみたいになっているところがすごく楽しかったです。
- ・アール・ブリュットの展示会は、よく出かける。今回は前回に比べ作品が圧倒的に多く、多彩、個性的でとても楽しかった。
- ・展示の構成が良かったです。きちんと作品に合った額装されていることで作品が引き立っていました。

オ. 情報収集、発信

【統括】

うみのもり Web サイトを核にして、Facebook ページ・Instagram・X (旧 Twitter) などの SNS、YouTube での動画コンテンツを活用して、随時発信している。

また、千葉県立美術館での公募展覧会「うみのもりの玉手箱3」の実施に関連して、「ちば県民だより」や新聞社など各種メディアで取り上げていただくことができた。

【令和5年度の運営から見えてきたこと】

(1) 情報収集

1. 基本的に昨年度の活動を踏襲して行うことができたが、今年度から展覧会「うみのもりの玉手箱」が千葉県立美術館での公募展覧会となったことで得るものが大きかった。作品エントリーから展示、表彰の過程で障害者アート活動に取り組んでいる事業所やアーティストと直接接することができたことは大きな収穫となった。今後、この千葉県立美術館での公募展覧会を継続し、積極的に活用することで、県内障害者アート関係者の情報収集が強化できると期待している。
2. 千葉県環境生活部スポーツ・文化局文化振興課実施の「障害者文化芸術団体（施設等）へのアンケート」に協力した。

(2) 情報発信

1. 昨年同様、SNS を通じ、アール・ブリュットに関する情報やうみのもりの活動を、随時情報発信した。
2. うみのもりの活動紹介、イベント募集のためのフライヤー送付を行った
対象：身体障害者福祉センター（B 型）、心身障害者福祉作業所、グループホーム、障害者生活ホーム、生活介護、就労継続支援 A、就労継続支援 B、地域活動支援センター、放課後等デイサービス事業所、福祉型障害児入所施設、中核地域生活支援センター、特別支援学校、入所地域生活支援専門部会委員、美術館、大学、障害者芸術文化活動支援センター、都道府県福祉担当部署、その他
・2023年5月：約2,500通・2023年8月：約2,540通・2023年11月：約2,550通
3. メーリングリスト送付（全国のセンターからの情報共有）
送付先：112件、送付メール数：15通
4. 「うみのもりの玉手箱3」エントリー者メーリングリスト（展示・搬出・搬入に関する情報共有）
送付先：71件、送付メール数：6件
5. 「うみのもりの玉手箱3」広報用メーリングリスト（エントリー者＋過去の人材育成講座参加者、広報に活用）送付先：218件、送付メール数：1
6. その他
 - ①「ちば 県民だより」令和5年9月号「県民ひろば」にて、公募展「うみのもりの玉手箱3」の作品募集記事を掲載していただきました。
 - ②公益財団法人 千葉県肢体不自由児協会会報「ともしび」175号にて、公募展「うみのもりの玉手箱3」の募集記事を掲載していただきました。
 - ③取材対応・メディア掲載
 - ・東京新聞（人材育成講座6、「うみのもりの玉手箱3」広報）
 - ・千葉日報（「うみのもりの玉手箱3」広報）
 - ・産経新聞（「うみのもりの玉手箱3」広報）
 - ・ベイエフエム（「うみのもりの玉手箱3」広報）



▲『県民だより』で掲載



▲『ともしび』で掲載

▶ YouTube を利用した情報の発信

Youtube の閲覧状況 (2024年3月31日現在)



展覧会あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱3

展覧会 (2024年1月開催) の記録動画と

人材育成講座3 (2023年8月開催)

※音楽の記録のため。写真は静止画となっております。 の記録動画です。

人材育成講座5 (2023年10月開催)

※講座の動画は、展覧会会場でも上映しました。

展覧会
「うみのもりの玉手箱3」
記録動画

https://youtu.be/QRLzTT_av3U



▶ 閲覧数 216 件

人材育成講座3
音楽表現分野
記録動画

<https://youtu.be/l79mHAzusVA>

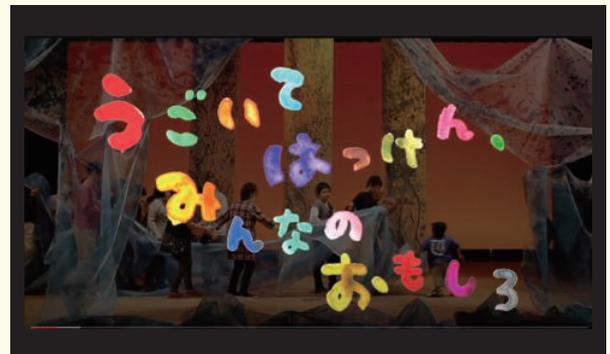


人材育成講座3 音楽表現分野1
5ダンスで音楽② Part1

▶ 閲覧数 34 件

人材育成講座5
舞台表現分野
記録動画

<https://youtu.be/KjFMrxUtalE>



▶ 閲覧数 97 件



うみのもり リンク集

千葉アール・ブリュットセンター **うみのもり**

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮2553-8 株式会社いるだま内

TEL・FAX 0475-36-7411

MAIL info@uminomori.net WEB <https://uminomori.net>
(メールアドレスが変わりました)



WEB サイト



Facebook ページ



X (旧 twitter)



instagram

令和4年度制作動画

令和4年度

動画制作による会場風景 (閲覧数 286 件)



【うみのもりの玉手箱2】 観覧会 動画



「ご案内」
送付受付フォーム

※令和3年度に送付した方には、
引き続き送付いたします。



相談フォーム

音楽身体表現の動画「くじらのピー」 (閲覧数 247 件)



くじらのピー



千葉県の
アール・ブリュット
作家・作品 紹介ページ
(監修 うみのもり)



千葉県のアール・ブリュット
作家・作品 紹介ページ
作品公開
エントリーフォーム

令和3年度

「くじらのピー イガグリ ver」 (閲覧数 135 件)



くじらのピー (イガグリ ver)



令和3年度 作品発表用
Facebook ページ

展覧会「うみのもりの玉手箱」用に
応募していただいた、作品を発表しております。
(2022年3月15日～20日 千葉市民ギャラリー・いなげ開催)

閲覧数は2024年3月7日現在

今後の展望・課題

(1) 相談窓口の設置

- ・新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」になった5月以降、作品貸し出しの相談などが出てきた。
- ・受託法人である（株）いろだまが教室運営・展覧会主催などを行っていることもあり、相談内容が「障がい特性に合わせての画材について」など具体的なこともあった。
- ・「うみのもりの玉手箱3」展覧会の実施中に来場者としてお越しになり、作品を見ながらの相談であったり、障がいのあるかたとのアートを通じてのヒントを求める声などもあった。

(2) 芸術文化活動を支援する人材の育成等の研修会・ワークショップの開催

- ・長きにわたり障がいのあるかたとの表現活動を担っているかたや作品との交流を図ることで活動のブラッシュアップを図りたい。
- ・より高みを目指す画材の知識を学ぶ機会を作っていきたい。
- ・美術・音楽、身体表現、詩（ことば）の各分野のワークショップの在り方を、継続からファシリテーター養成へと深めた内容に変化させていきたい。

(3) 関係者とのネットワークの構築

- ・千葉県全域でのつながりの形成
- ・表現活動をしている福祉事業所との連携
- ・メーリングリストを使ってのより広いつながりを持つ

(4) 発表等の機会の創出 公募展「うみのもりの玉手箱4」の実施

- その1、「うみのもりの玉手箱4」でのアールブリュットの先駆的取り組みをしてきた施設の作品発表展の開催
- その2、千葉県内でのアートを中心とした施設の公募展を「うみのもりの玉手箱4」で実施
- その3、個人での活動者の発掘・展示
- その4、令和5年度同様の作品公募「よろこびをテーマにした あらゆる人の表現」
- その5、人材育成講座、音楽講座、舞台表現分野の動画などによる成果発表
- その6、詩の朗読会の実施
- その7、展覧会期中 会場での作品・画材などの技術のレクチャー
- その8、展覧会期中 スタッフによる会場での説明会
- その9、アート関係の表彰者数を増やす

(5) 千葉県との関わり

千葉県とは「千葉県文化芸術推進基本計画」の策定、令和4年度～令和6年度までの3年間、千葉県文化芸術推進懇談会に関わる。その中で、千葉県の目指す姿として「あらゆる人々が文化芸術に親しみ、交流することで創り育む心豊かな県民生活と活力ある地域社会」が掲げられており、〈施策の柱〉として5つ項目があるうちの1つ目、「(1) あらゆる人々が文化芸術に親しむことが出来る環境作り」として「文化芸術活動を行う人々の自主性や専門性が尊重されるとともに、障害の有無や年齢等に関わらず、誰もが文化芸術を実践・鑑賞することができる環境を整備する」、この観点から障害者芸術文化活動普及支援事業が担える点があるのではと思索している。

千葉県が目指す「あらゆる人々が文化芸術に親しみ、交流することで創り育む心豊かな県民生活と活力ある地域社会」の中の「4 施策の柱（5つあるうちの1つ目）」、「(1) あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり文化芸術活動を行う人々の自主性や専門性が尊重されるとともに、障害の有無や年齢等に関わらず、誰もが文化芸術を実践・鑑賞することができる環境を整備」していきたい。

評議員より



評議員 西村陽平先生
日本女子大学名誉教授

今年度の事業の実績を見ますと、千葉県立美術館で実施された展覧会「うみのもりの玉手箱3」（2024年1月10日～21日）展示作品数210点、来場者数4177人とあります。この数字を見ますと、かなり反響があったものと思われます。この展覧会の変わっているところは、出品を希望される方、全員の作品が展示されたことです。最近ではあまり行われていませんが、アンデパンダン展方式が思い出されます。アンデパンダン展では、無審査、無賞で行われますが、この展覧会では、賞は出しています。この賞について、主催者から既存の身体障害者福祉協会展覧会を引き継ぐために賞を出したという話でした。以前から障がい者団体が主催する美術コンクールが行われています。そこで、問題点ですが、基本的な美術に対する考え方についてです。今回の展覧会的主催者はアールブリュットを基本的な指針としています。「うみのもり」のパンフレットには次のように説明されています。「加工されていない芸術、伝統や流行などに左右されず、作者自身の内側から湧き上がる衝動のままに表現した芸術など、さまざまな言葉で定義されています。」実際に賞を選ぶときに、この考え方の違いが表れてきます。

出品者の中には、受賞を目指して制作している人もいます。賞が指針となってしまうので、十分注意が必要です。

千葉県立美術館で実際に出品作品を観て感じたことがあります。障がい者の制作をサポートするスタッフの方々、もっと多くの作品を観てほしいということです。来年度は、千葉県立美術館の大きな展示室が借りられるということなので、他県の優れた活動（例えば埼玉県の工房集など）を紹介する企画もいいのではないかと思います。

ポコラートという全国公募展がありました。ポコラート展は「障がいのある人、ない人、アーティストが核心の部分で影響し合う場」と定義されていました。

展覧会の企画は難しいですが、この言葉に学びつつ進めてほしい。

ちなみに、ポコラート展の千葉県の入選者数は少ないです。



評議員 花澤洋太先生
東京学芸大学 教職大学院 教授
(教育学研究科 教育実践専門職高度化専攻 教科領域指導プログラム 美術・工芸教育サブプログラム)

今年度は2019年末から世界的に大流行した新型コロナウイルス感染症も令和5年度5月8日以降、感染症法上2類から5類に移行したことで多くの制限が緩和された。千葉アール・ブリュットセンター「うみのもり」代表 こまちだたまお（御領徳子）さんの対面活動も今まで以上に活発になり広域な千葉県内を縦横無尽に駆け回り多くの地域、障害者施設における造形活動、ワークショップが実施された。活動を通して各事業所との信頼関係を構築、情報共有が行われた。活動内容はweb、SNSを活用して常に更新発信された。

人材育成に関しては各専門家の人材育成講座開催は参加者の様々な興味に対応する。アート、表現活動を美術、詩、身体表現など創作物だけではなく多様なプログラムを用意することで参加者は新たな学びの場を体験できた。講座終了後、内容は動画配信を行い長い時間アクセスできるように配慮されている。

今年度から展覧会企画「うみのもりの玉手箱3」展示は千葉県立美術館で開催された。今まで展示開催を行った千葉市民ギャラリーいなげ、より展示会場へのアクセスはバリアフリーで良い環境となった。展示は今まで以上に多くの多様な作品を中心に人材育成講座ドキュメンテーションを展示、工夫した会場構成となった。また展覧会終了後は動画で会場の様子、作品を鑑賞できる。QRコードを作成、掲載によりスマートフォンからwebサイトのアクセスを容易にしてある。

現在、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築、障害の有無に関わらずアート活動、展覧会を通じた交流、文化活動など「多様な学びの場」が期待されている。「うみのもり」の活動は共生社会の足がかりとしての貴重なモデルと考える。

発行日：2024年3月

企画・編集・発行：株式会社いろだま

発行責任者：こまちだ たまお（株式会社いろだま代表）

デザイン・印刷：デザインワークス

千葉県障害者芸術文化活動支援事業
千葉アール・ブリュットセンターうみのもり

〒299-4301

千葉県長生郡一宮町一宮2553-8(株式会社いろだま内)

TEL・FAX:0475-36-7411

MAIL:info@uminomori.net

HP:https://uminomori.net

本書は千葉県「令和5年度千葉県障害者芸術文化活動支援事業」の一環として製作しました。

